

2023 年度学校評価シート（自己評価）

認定こども園 聖愛幼稚園

1、園の教育目標

- キリスト教に基づき、一人一人の性格や特性、発達段階を踏まえて保育をし、自己肯定感をはぐくむことを目指す。
- 遊びを通した生活の中で、感性を養い、社会性をはぐくみ、自己統制の力を養う。

2、具体的な目標や計画

- 一人一人の性格や特性、発達段階を理解し、適切な保育環境を整え保育を行う。
- 教職員間の連携を深め、チームで保育する意識を高める
- たて割り保育（異年齢保育）を行い、異年齢間の関りを広げ、それぞれがともに育ちあう基盤を作る。また、こども同士が協力し合い遊びを広げられる環境を整えていく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
認定こども園保育・教育要領、キリスト教保育、子どもの実態などをもとに考え指導計画を作成している。	A	子どもの実態の把握を行い、それについて保育者間で話し合い、作成した。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。特別な配慮を要する子どもには個別の指導計画をたて、保護者や関係機関と連携をとる。	A	保育者間での話し合いにより、様々な方向から子どもの実態を把握し、指導計画に反映させた。配慮の必要な子どもの個別の指導計画では、保護者へ詳しく説明を行うよう配慮した。
自分の好きな遊びを見つけ、遊びに没頭する。また、年齢に応じて、協力して遊びを広げ楽しめるようになる。	B	様々な材料を用いて、遊びの幅が広がってきた。楽しめる子どもは没頭して遊びを作っていくが、没頭できずに遊びを転々とするこどももまだ多い。 年長の子どもたちは、一緒に何かを作り上げる遊びを繰り広げられるようになった。
異年齢で過ごすことにより、遊びの幅を広げ、モデルを見て学ぶ。	B	年長の子どもが、年少の子どもたちの援助をしたり、年少の子どもたちが、年長に安心の居場所を見つけるなどのメリットがある反面、子どもによっては、安心の場所がなかなか見つからないことがあった。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	保育者全員が、保育の目標を理解し、子どもの実態の把握に努め、適切な保育が出来ている。子どもの発達段階に応じた遊びの工夫や、個別に配慮する子どもたちへの対応が適切になされている。縦割り保育については浸透してきている。子ども同士の自然な縦割りの関係性ができてきている。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育や、保育に関わる考え方について、保護者に伝える	仕事を持つ方が増え、幼稚園に関わるものが少なくなったことによる、子どもについて、また、保育への考え方について様々な場面で発信していく。お便りやホームページなどの SNS、ポータルフォリオ等、可視化し、わかりやすくする。クラスだよりなど、より分かりやすく、発信できるよう考えていく。
保育内容	子どもの遊びの充実を考え、自然物やいろいろな材料をそろえながら、子どもの興味関心広げ、遊びに没頭できる時間を増やしていく。
保育園幼稚園の生活時間について	保育園の長時間の生活ではゆっくりとできる時間と場所を確保し、それぞれの生活時間を考慮しながら、双方にとってよりよい生活の仕方を考えていく。
縦割り保育	保護者が担任との関わり合いを求めていることを鑑みて、次年度からは縦割り保育のクラス名を作り、担任をわかりやすくする。

2023 年度学校評価シート（学校関係者評価）

認定こども園 聖愛幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和6年 3月 3日（日）

出席者 評価委員（ 保護者会1名・教会関係・地域住民 計3名）

園長・副園長合計5名

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

適切であった

2. 評価結果の内容は適切であったか

適切であった。縦割り保育は良いところと難しいことがあるようなので、頑張ってもらいたい。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

適切である。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

クラスや担任のことなど、次年度に期待する。